



最優秀賞受賞にあたって

せきね ゆきえ
茨城県鹿嶋市立高松中学校 関根幸枝

この度は、栄えある東書教育賞最優秀賞を頂戴しありがとうございます。先日、審査委員の先生方や関係者の皆さまのご臨席のもと、厳粛かつ盛大な贈呈式に参加させていただき、あらためて素晴らしい賞を受賞できた喜びを実感しております。

私が教育論文を初めて書いたのは、今から10年前になります。その頃、私は養護教諭として、目の前の子どもたちの「こころ」を育てたい、健康にしたいと考え、悩み迷いながら、試行錯誤しているところでした。そんな時、「自分の実践をまとめてみなさい。自分がやってきたことが整理できるし、これから何をしたらいいのかが見えてくるよ」と、ある先輩に言っていました。

その言葉をきっかけに、自分の実践をまとめることで、養護教諭としての自分の在り方と向き合うことを続けてきました。

今回の論文は、前任校の小学校での実践をまとめたものです。6年前に出会った1年生。たった11人なのに、なんて個性的な子どもたちだろうと驚きました。しかし、出会ったからにはこの子たちを何とかしたい！ 養護教諭である自分は、卒業までの6年間、一人一人とじっくり向き合い、関わることができました。「卒業する時に、自信をもって中学校に送り出せるたくましい子どもたちに成長させたい！」。その思いで取り組んだ健康教育の実践です。

誰にとっても「健康は一生の財産！」。子ども

たちに大切な健康の種を蒔くのが養護教諭の仕事です。養護教諭として11人をたくましくするために、「気づき、考え、生かせる健康教育」を実践しました。6年間の積み重ねで、一人一人が自分の心や体を知り、大切にできるようにしたい。それが養護教諭として、子どもたちに健康の種を蒔くこと、たくましく育てること、そう信じて続けた6年間の実践です。

この論文をまとめたことで、養護教諭として何ができるのか、何をすべきなのか、ずっと悩んできた私にとって、ようやく自分なりの「養護教諭の在り方」が見えてきた気がします。これまで20数年この仕事を続けてきましたが、今回、素晴らしい賞をいただくことができ、養護教諭としての自分を初めて褒めてあげたいと思うことができました。

今後は、今回お認めいただいたことを糧に、中学生にしなやかな折れないこころを育てていけるよう、研究・実践を続けていきたいと思えます。また、先輩方にいただいたたくさんの財産を、後輩たちに伝えていくことも自分の使命であると思えます。

最後になりましたが、今回の研究実践にあたり、ご協力いただいた先生方、保護者の皆さま、そして何より一緒に健康教育に取り組んでくれた11人の子どもたちに、この場をお借りして感謝したいと思います。本当にありがとうございました。